

広報
第39号

上野東部だより

2018年3月15日
発行
東部地域住民自治協議会
総務広報部会
伊賀市緑ヶ丘東町920
上野東部地区市民センター内
TEL・FAX 24-3999



「考え方、育てよう、 思いやりの心」

桂文喬の
人権落語講演会

平成29年12月8日(金)午後2時、東部公民館に桂文喬(落語家・教育評論家)を迎えて人権落語講演会が開催されました。

テーマは“考え方、育てよう、思いやりの心”です。底冷えする小雨の中、約100名の参加があり2時間の講演でしたが終始、笑顔満開。大きな笑い声が館内に響いていました。

大学卒業後、教員(高校社会)志望から一転、五代目桂文枝に入門。朝日放送落語新人コンクールで優秀賞を受賞。一部はスーツ姿で登場。「人は優しくなければ生きていく資格はない」との名言。そして「やさしさ、思いやりが人権の基本です。自分の人権を愛するということは、他人の人格も認めるということです。」と強

調。二部は着物姿で登場。自身の闘病生活を通して、主治医・研修医・看護師・同室の患者との関わりを題材にした創作落語「研修医山田一郎」を熱演、爆笑でした。人へのちょっとした気遣い思いやりに接し、そのお蔭で病気も完治し現在がありますと、感謝の念いを熱く語ってくれました。笑いと納得の人権落語講演会でした。

毎年色の違った落語で笑いが倍増しました。来年も楽しみです。

同日、東部公民館で「インターネットによる差別事象の現状と差別解消の取組み」と「同和問題の解消に向けて」をテーマとする人権パネル展も同時開催しました。

〈取材：鷹森 由紀子〉

住民参加で安心・安全のまちづくり

どんなことでも、ためらわず一歩を踏み出す勇気と、活気のある町づくりを目指します。

上野田端町自治会の現在の戸数は410戸(毎年10戸余りの増減あり)ありますが、平成元年当時は280戸で、約1.5倍に達しております。

一般住宅の増減はほぼ横ばいですが、緑ヶ丘の住宅開発の波及効果で集合住宅や宅地開発により増加しました。

住み良い町づくりのため、地域活動を通して新住民と旧住民がふれあい、町勢の進展に寄与したいと思っております。

【総務・広報部会】

- 町広報(6月、10月発行)
- 日帰り旅行(8月下旬)

【健康・福祉部会】

- ガーデニング教室
- ラジオ体操(7月20日～8月20日)
- 敬老祝賀会(自治会と共に9月中旬)

楽しみいっぱいの 「日帰り旅行」への参加



日頃の特技が演出できる 「敬老祝賀会」



【環境保全部会】

- 町内一斉清掃、東部自治協の活動に参加
- 児童運動場の清掃及び維持活動
- たばた緑地公園の維持管理
- 田端集議所の維持管理

【教育・文化・体育部会】

- グランドゴルフの集い(5月中旬)
- ハイキングまたはカローリング(8月または10月)
- 絵手紙教室 卯の花会(毎月第2日曜日)
- 趣味の会(俳句会)(毎月月末日曜日)
- サークル活動発表会(11月中旬)

【民生活動会】

- 上野田端町いきいきサロン(毎月1回)
- 世代間交流ふれあい会(12月)
- クラブ活動(手芸、うたごえ、ハンドベル演奏)
- その他 映画会、音楽療法

3B体操、語り部お話し会

【児童福祉会】

- 自治会活動への参加
- ボウリング大会
- 映画鑑賞
- 自転車点検
- 地区懇談会

文化活動を一同に集約した腕自慢
「サークル活動発表会」



【老人クラブ・福寿会】

- ハンドベル演奏練習
- 花と味覚鑑賞会
- 花壇の手入れ
- 紅葉狩り



【自主防災会】

- 町防災訓練
- 青パト活動
- 歳末警戒パトロール

ガーデニング教室



安心で安全の
街づくりを目指して
後世に残していきたい

たばたっこの想い

この街で生まれ育ち この街で暮らし 住んで
いつか おばあちゃんになりたい
おじいちゃんになった あなたと この街で 生きていきたい
丘の広がる青い空 白い雲が一つ浮かんでる
あの雲を追いかけ 夢を追いかけ
喜びも 哀しみも あなたと この街で 生きていきたい
たとえ 一人ぼっちになんて
人と人が寄り添う あたたかい この街で 生きていきたい



(寄稿:上野田端町自治会長 南 徹雄)

避難所マニュアルについて ④

災害が大規模になれば、市内全域になるためこの状況から生きのびるためには、自らもしくは地域の力により回避するしかありません。広報35号（東部だより）から避難所マニュアルの重要なところを掲載しています。第1回は各自治会別災害時の避難場所、第2回は避難所開設・基本方針について、第3回は災害発生～避難所開設・運営・撤収の流れについて、今回は災害発生～開設までの流れについて掲載します。掲載内容に目を通してくださいとともに住民の一人一人が自助・共助が如何に大切であるか再認識し「住むまちを地域で守る」という防災意識の高まるることを願っております。

災害発生～開設までの流れ

災害発生から開設までの「安否確認」「初期消火、救出・救護」「避難支援」の流れです。地域で迅速な行動が図れるよう、協力し合いながら取り組みましょう。

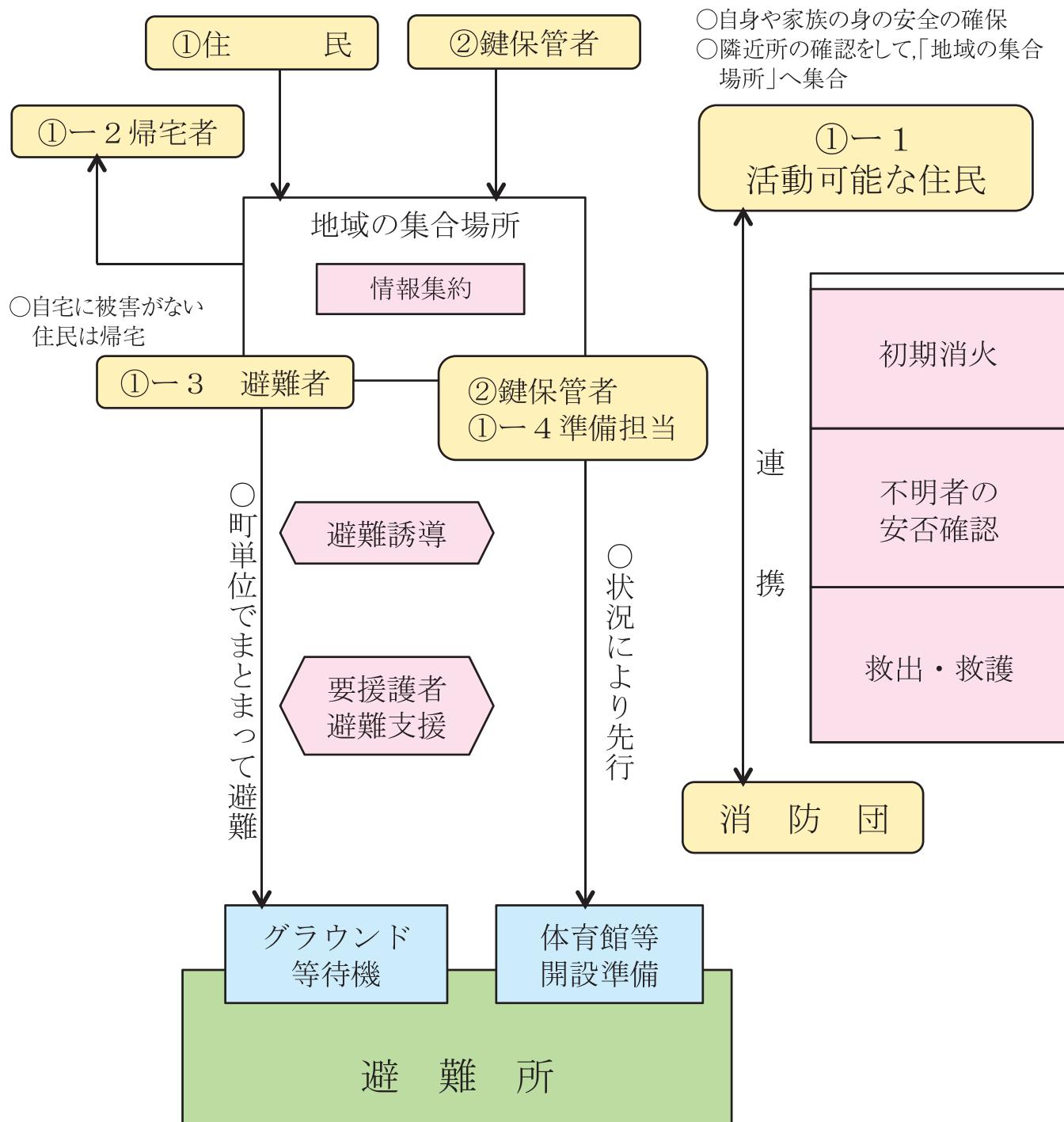
災害発生から開設（発生から24時間）までの流れにおける各活動

時間	安否確認	初期消火 救出・救護	避難支援	(参考) 鍵保管者の行動
発生～3分	<input type="checkbox"/> 家族の安全確保 <input type="checkbox"/> 隣近所の安否確認	<input type="checkbox"/> 隣近所の出火の有無、救助等の必要性の有無確認		<input type="checkbox"/> 身の安全確保
～30分	「地域の集合場所」へ			
	<input type="checkbox"/> 安否確認 <input type="checkbox"/> 安否確認の継続	<input type="checkbox"/> 初期消火・救出・救護 <input type="checkbox"/> 可能な限り消防団との連携のもと活動可能な住民と初期消火・救出・救護の継続	<input type="checkbox"/> 要援護者への支援	<input type="checkbox"/> 無事を伝え、避難所へ
～3時間			<input type="checkbox"/> 要援護者への支援を行なながら町単位で避難	<input type="checkbox"/> 開錠し、体育館等開設準備開始
～24時間			<input type="checkbox"/> 開設準備が整うまでグランド等で待機	<input type="checkbox"/> 開設

災害発生から開設までの役割による人の流れ

①住民：「自身や家族の身の安全の確保」、「隣近所の確認」後、“地域の集合場所”へ集合します。活動可能な住民（①-1）は可能な限り消防団との連携のもと「不明者の安否確認」「初期消火、救出・救護」を行います。また、被災の状況をみて、自宅に被害がない住民は帰宅（①-2）し、自宅に被害がある住民は要援護者の避難支援を行いながら、周辺の安全に気を付けて避難所へ向かいます（①-3）。開設準備が整い、受付ができるようになるまではグラウンド等で待機します。

②鍵保管者：「自身や家族の身の安全の確保」後、“地域の集合場所”へ向かい、自分の無事を伝え、状況により先行して、準備を担当する人員（①-4）とともに避難所の開錠及び開設準備を行うため避難所に向かいます。



人権啓発地区別懇談会学習会開催

1月16日(火)、午後2時より東部公民館において人権啓発地区懇談会学習会が開催されました。開催にあたり人権政策・男女共同参画課の上島課長から伊賀市の差別事件の現状報告と「差別用語が攻撃の言葉として使われることによって、誰かが傷ついているということをもう一度振り返って、お互いがお互いを尊重する社会を築いてほしい。」と挨拶がありました。

次いで、「わっかカッフェへようこそ」と題するビデオを

鑑賞し、4グループに分かれて、ビデオで取り上げられたインターネットによる人権侵害、高齢者の人権等について意見交換を行いました。

今後、各自治会での地区別懇談会が開催され、「一人一人の人権が尊重される」心のふれあうまちづくりに繋がっていくことが期待されます。



鈴鹿市飯野地区地域づくり協議会、設立準備委員会の方々30名が訪問され、視察交流会が開催されました。

現在飯野地区では、平成30年度の地域づくり協議会設立に向けた組織づくりに取り組んでおり、訪問の目的は、先進地である東部住民自治協議会のこれまでの立ち上げの経緯、現在の取り組み内容、設立前後のよかつた点、悪かつた点等について知りたいとのことで、視察されました。

東部住民自治協議会の服部会長及び設立準備委員会の太田会長が挨拶後、東部地区市民センター堂山セン

鈴鹿市飯野地区地域づくり協議会、設立準備委員会との交流会開催

2月27日(火)、午後2時より地区市民センターにおいて、鈴鹿市飯野地区地域づくり協議会、設立準備委員会の方々30名が訪問され、視察交流会が開催されました。

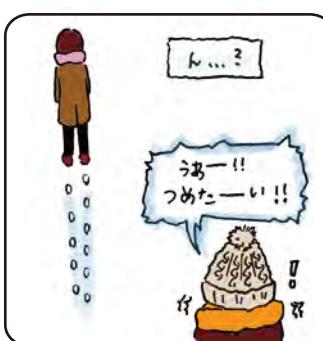
ター長より東部地域の概要、部会活動の概要、立ち上げ時の組織づくりについて説明があり、質疑応答にはいりました。

飯野地区は15の自治会、人口14,842人と東部地区を超える規模の地域で、立ち上げにあたり課題も多く、特に活動していくには予算が最も重要であることから設立後の財政面がどう変わるかに多くの質問があり、また自治会活動と協議会活動の関わり方等々時間が足りない程活発な論議となりました。

これからの住民自治協議会に欠かせないのは、活動してくれる人の発掘、住民参加を如何に高めるかの工夫、リーダーシップの発揮であり、地域住民に活動の内容をもっとよく知ってもらい、住民の望む活動にしていくことが大切であるということが交流会のまとめとなりました。

ホットコーナー

春が待ち遠しい



編集後記

2018年は、スポーツイベントが目白押しです。2月に平昌冬季オリンピックが行われ、3月はパラリンピックが開催されています。6月にはロシアでサッカーW杯があります。楽しみにされている方も多いのではないでしょうか。

4年に一度の大舞台に、選手の皆さんが出でます。これまでの努力を想像すると自然と讃えれる気持ちになります。応援は選手の皆さん的心の支えにな

ると共に私たちの心の栄養にもなると感じます。何事も諦めず挑戦する勇気が湧いてきます。

新しい環境でスタートする人も多い季節を迎え、家族だけでなく地域全体で暖かく応援していけたらと思います。

上野東部よりも今回で、本年度最終号となりました。地域の皆様方からの情報提供、寄稿ありがとうございました。これからも部会員一同頑張ってまいります。次年度もご協力よろしくお願ひ致します。

(野崎 佳世子)